



富士山噴火のリスクと備え

2021年3月、富士山火山防災対策協議会が17年ぶりに「富士山ハザードマップ」を改定しました。

主な修正点は、マグマ（噴出する溶岩）の量が2倍に、噴出地点も44カ所から252カ所に増加したうえに溶岩流が到達する地域も山梨県、静岡県に神奈川県相模原市などを加えた3県27市町村に拡大されるなど、被害想定が以前よりもはるかに甚大になったのです！



【現状】 国内には111の活火山があり、中でも、富士山が噴火した場合には首都圏など広いエリアに甚大な被害が及ぶ可能性が指摘されています。また、2020年時点で“30年以内の発生確率が70%～80%”とされている南海トラフ地震や首都直下型地震などの巨大地震が富士山の噴火を誘発する可能性も指摘されています。

【富士山が噴火した場合の首都圏での考えられる影響】

鉄道	地上路線は微量の降灰で信号や踏切の動作不良、電車位置が確認できないなど安全面の不具合が起こって運行見合わせに。地下鉄も需要増加による車両・作業員不足で輸送力が低下。
道路	火山灰による視界不良や、道路上に積もった灰でタイヤがスリップするなど、安全な通行が困難に。また、鉄道・航空交通の停止に伴う交通量増などにより速度低下や渋滞が発生。
物資	微量の降灰でも、人口の多い地域では買い占めにより、食料や水などの売り切れが発生。また道路や鉄道など交通に支障が生じると、物資が届かず、店舗の営業が困難に。
人の移動	鉄道が動かなくなると、駅に滞留者があふれる。さらに、通行止めや渋滞など道路交通に支障が生じると、移動手段が徒歩だけになってしまう。火山灰で足元が悪く事故に遭う可能性も。
電力	火山灰によって鉄塔や電柱、電線などに異常が起きると停電が発生。また、道路の通行不能により被災現場へ行けず、復旧までに時間がかかる。
通信	降雨でアンテナに火山灰が付着すれば通信障害が起きる。また、長引く停電で携帯基地局の非常用バッテリーが切れれば、基地局の機能が停止。
上水道	多摩川水系や荒川水系、さらに浄水場に降灰すると、水質が悪化し、水道水が飲用に適さなくなる。停電エリアでは浄水場が機能停止し、断水が発生。
下水道	火山灰を洗い流したり、雨が降ると、下水管の中で火山灰が詰まり、雨水があふれる。さらに停電でポンプや設備が燃料切れになると下水道使用が制限。
体育館など (長スパン の建物)	体育館など建物を支える支柱と支柱の間が長く、勾配の緩やかな屋根を持つ大型建物の場合は、積雪荷重を超えるような降灰重量がかかると壊れる可能性大。そのため、避難場所としては危険な場合も。
木造住宅	木造建物の場合、30cm以上の火山灰が堆積し、さらに雨が降って重たくなると倒壊する可能性が。雨が降らなくても45cmの堆積厚で壊れることも。

噴火したその時、どう行動すべきなのか？

噴煙とともに噴出した火山灰は、西風によって噴火の数時間後には首都圏にも到達し、数cm程度降り積もるといふ予想が出されています。

外出先で噴火を知った場合、溶岩流が到達する心配のない地域であれば、急いで帰宅し、可能なら、火山灰の到達が予測されない地域に避難するのが賢明です。まずは自宅や勤め先、子供の学校などがどのような影響を受ける地域なのか把握することが大切です。火山灰が降り始めれば、たちまち交通機関は麻痺します。線路に灰がたった1mmでも積もれば鉄道が止まり、道路に5cm積もれば車も走れなくなります。火山灰が降るまでに、避難場所や自宅に到着することが大切です。もし間に合わなければ、火山灰が降る中を歩いて帰宅、あるいは避難場所へ移動することになり、足元が悪くケガに遭う危険性もあるうえ、帰宅困難問題も起こる可能性があります。

火山灰対策

- ・外出は控える
- ・水と食料を備蓄
- ・外出時は服装注意

窓を閉める



カーテンや
ブラインドも

外出する
場合は…

火山灰は滑りやすい

車もスリップしやすい
視界も悪くなる



コンタクトレンズは外す

(角膜を傷つける恐れがある) 眼鏡



普段、眼鏡をかけない人も目を
ガードする(目に入ってもこすらない)

防塵ゴーグルがあればなお良い



防塵マスクがあればなお良い



マスク



帽子(あればヘルメットや防災頭巾)

火山灰が髪や皮膚につかないように

長袖・長ズボン

火山灰が皮膚につかないように

(ナイロン製などツルツルした素材)

滑りにくい靴

サンダルは滑る
うえに肌が露出するので×



やっかいな火山灰 3つの特徴

① 粒子が硬く尖っている

(溶岩が爆発で破片となったザラザラとした石の粉)

② 水を含むと電気を通す

(二酸化硫黄などの火山ガスを含むため)

③ 水を含んで乾くと固まる

(石膏成分が接着剤の役割を果たし、モルタル状に固まる)

火山灰は見た目はサラサラしていますが、マグマが微粒子になった“細かいガラス”です。少しでも目に入れば角膜が傷つき、場合によっては失明する危険性もあります。コンタクトレンズの人はすぐにメガネに替えましょう。スキー用のゴーグルなどが最適です。髪に火山灰がつくと落とすのが大変なうえ、目や耳、鼻に入りやすくなる。ヘルメットが好ましいですが、なければ帽子をかぶる。傘を差すことも有効です。また、吸い込めば、口や鼻などの粘膜を傷つけ、呼吸器に影響を及ぼします。呼吸困難や激しい咳が出たり、喉の痛みを感じるので、マスク(あれば防塵マスク)をつけて移動してください。

(地震・噴火・津波危険補償特約のご紹介)

一般的な傷害保険では地震・噴火またはそれらによる津波を原因とするケガや死亡は補償されません。

皆様自身や大切なご家族をお守りするためにも、傷害保険のご加入と特約のセットをおすすめいたします。

詳しくは、弊社営業担当者までお問い合わせください。

地震・火山大国日本では、大地震や大規模噴火がいつ発生してもおかしくありません。誰もがそう意識して備えや準備をすることが必要です。

弊社は損害保険会社8社、生命保険会社8社、少額短期保険会社1社を取扱い、お客様の企業経営から個人のライフプランまで総合的なリスクマネジメントをご提案いたします。

現在弊社以外でご契約の保険の証券診断も承りますので、お気軽にご相談ください！

弊社では、募集品質の改善・向上への取り組みの一環として、お客様から忌憚ないご意見やご感想を伺っております。是非ともご協力ください！

“お客様アンケートのサイト”

<https://forms.gle/EXCkVdfkxmLLni7u7>



◆弊社ホームページで「TOKYO CENTRAL NEWS」のバックナンバーを掲載しておりますので、是非ともご参照ください。